風土会　　　会報（11月）No.1

♪　♪　♪　♪　♪　♪　♪　♪

文責　　柴田　悦子

第１回学習会を，平成 19 年 11 月２日（金）19：00 ～ 20：00 博多中学校にて行いましたので報告いたします。

第一回目の内容
講師　重枝一郎先生（千代中学校教諭）
　１　学習会の意義
　２　理論と実践報告
　３　エクササイズの体験活動

１　学習会の意義

望ましい学級の姿は「準身内」(「身内」といってもよい）であり，望ましい学校の姿は「世間」であるが，現在の学級・学校は「赤の他人」化が進んでいる。しかしこのような社会的課題ともいえる現象を解消する役割を担うのも「学級」「学校」である。(図１参照）

学校は好ましい反応を定着させるための条件が整いやすいといわれている。(ポジティブな学校文化力）

「集団づくり」の基本は「身内を広げ，世間をつくる」ことであるが,「集団づくり」は行事や生徒指導，授業に力を入れる中でつくられると考える人が多い。それよりももっと根っこの部分,「風土づくり」にこだわりたいと考える。(図３参照）

「風土づくり」はすぐに結果は出ないが，徐々に徐々につくられていく。その「風土づくり」を行うために，様々なエクササイズを取り入れるが，ただエクササイズをやるだけではなく，ここでは根底にある理論をうまくミックスさせせることが重要である。(図２参照）

図１

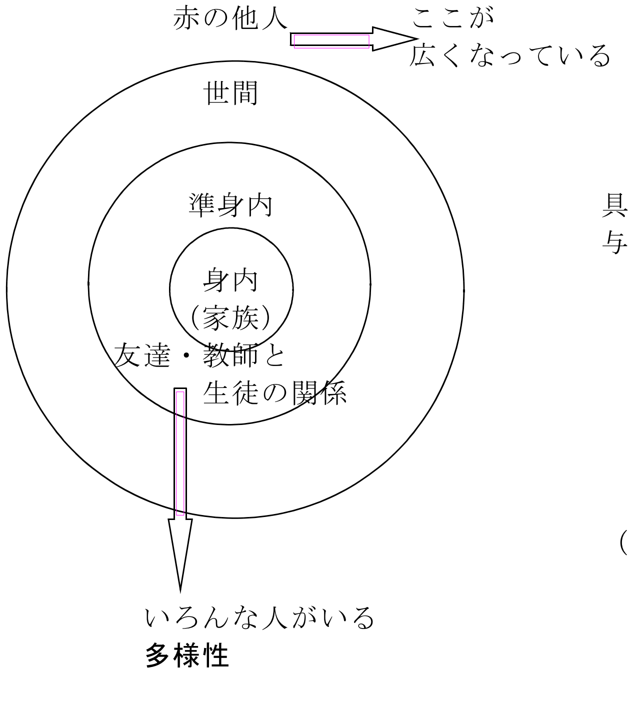


図２

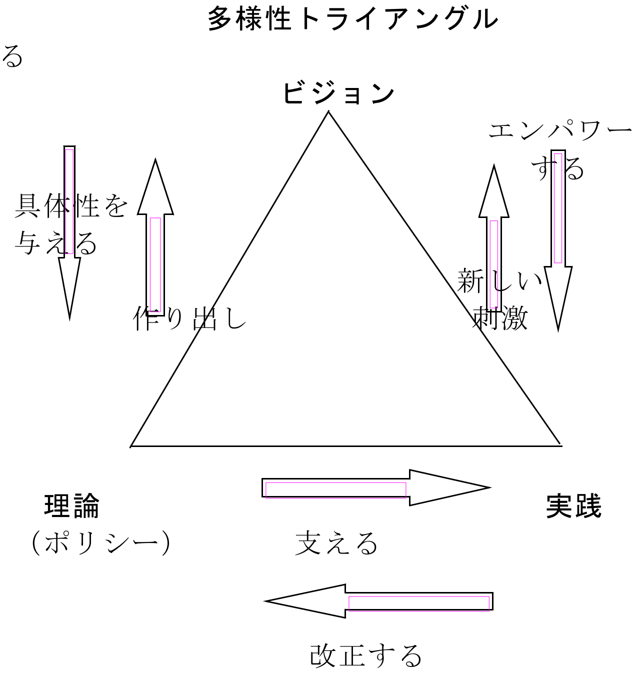
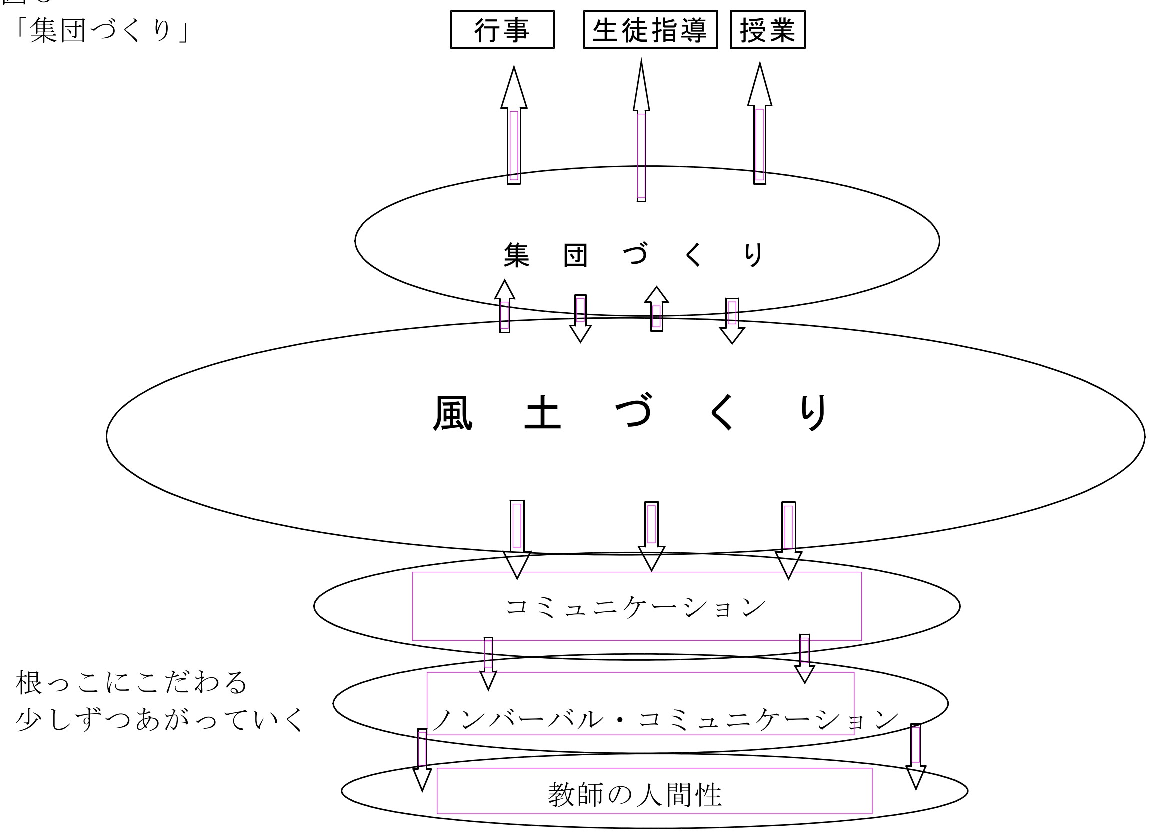


図３
「集団づくり」



２　エクササイズの根底にある理論と実践

理論はまず教師が理解すべきことである。その上で生徒にもきちんと伝え，エクササイズをやっている背後には，しっかりとしたポリシーがあることを感じさせることが大切である。たとえ理解はできなくても，感覚的に学び，素直に受けとめることができるからである。

実践１　「人は聞いたことは忘れる　見たことは覚える　したことは理解する」

人の学びの記憶

聞いたことは	２０％　の学び
見たことは	３０％　の学び
自分で口に出すか書く	７０％　の学び
自分で教える・行動する	９０％　の学び

授業中の学習態度（ノートのとり方や助け合い学習の意義）に結びつける。生徒への伝え方では，逆発想を使うと効果的。

１　「今から授業内容は板書しない。ノートもとるな。ただ聞くだけ」→２０％の学び

２　「板書する。ただ見ておく」→　３０％の学び

３　「ノートをとっていいよ。先生に質問したり，会話してもいい」→７０％の学び

4　「早く終わった人はわからない人に教えよう。助け合い学習をしよう」→９０％の学び
↓
耳・目・口・心・身体　全体をフルに使う
学びの記憶がフルになる

道徳の定義：「人のためにもなり，自分のためにもなる」にも関連づける

「関連づけることのできる人が頭のいい人」　日常的に関連づけさせる

このように，気持ちに訴えるだけではなく，生徒に体験させながら説得する。一度体験すれば，生徒が「察知」するようになる。→暗号化

エンカウンターの手法を取り入れることは，実際に生徒が体験する中での学びとなるので，９０％の記憶となっていく。すなわち効果の高い学習法であるといえる。

実践2　言葉のキャッチボール

「心のノート」P.５８～５９の内容をどうエクササイズするか？
ただ内容を読みワークシートを書く従来のやり方ではない方法
つまり，自分で行動する「９０％の学び」となる方法

⇩

重枝流の発想　テニスボールを使ったエクササイズにする
テニスボールが自分の「心」
二人一組で行う

（１回目）ボールを強く投げながら「ごめんなさい」と言う　→　〈ムカッとする〉
（２回目）「ごめんなさい」と言いながら優しく投げたボールを，無視してとらない→〈イヤな気分〉
（３回目）キャッチボールをする　→　〈１，２回目の後なので，すごく気持ちがいい〉

⇩ 実際に参加者全員が体験しました。生徒以上に盛り上がり，自分の気持ちの変化を実感しました。そして，９０％の記憶に残るということも納得できました。

話を聞いている段階では理解していなかったことも，ストンと納得できた瞬間でした。自分の生徒にも「やらせたい」「やってみよう」「これならやれる」と心から思えました。

実践３　えんぴつ対談　（自己理解・他者理解・内観法）

重枝発想法　千代中に行って思ったこと
土日や連休明けは特に生徒が落ち着かない（うるさい）

しかし・・・

うるさい	・・・	思考は働いている
静か	・・・	思考がストップ

そこで・・・　静かで思考させる方法はないか！？

小学校の先生からちょっと聞いたことのあるエンカウンター「えんぴつ対談」をアレンジ

○ テーマを与えて二人一組で行う，いわゆる「筆談」である
テーマは，同じ内容だと１５分くらいで飽きるので，テーマを変えたり，内容をしぼっていくなど工夫が必要である。

〈例〉１　体育会（合唱コンクール）について
→行事の振り返りができたり発想がプラスになる

２　「給食の準備が遅いのでどうしたらいいか？」
→クラス全員が思考する授業となる
意見を求めたとき「僕らの考えは～」という形で発表し始める

※ シェアリングの方法は，教室掲示でもいいし，発表でもよい。

これも参加者全員で体験しました。はじめて会った人同士で二人組をつくりました。「えんぴつ対談」をしていく中で，お互いのことを理解しようとする親密なムードがつくられました。これがまさに「風土づくり」なんだと実感しました。
重枝先生に「終わり」と言われても，「まだ続けたい」という気持ちになっていました。今回の学習会ではエクササイズを実際にやってみたことで「感じた」ことがたくさんありました。この「感性」こそ，大切にしていきたいです。

今回の学習会での**「キーワード」**

○「風土づくり」
○「ビジョン・理論・実践」（多様性トライアングル）
○「人の学びの記憶」

聞いたことは	２０％の学び
見たことは	３０％の学び
自分で口に出すか書く	７０％の学び
自分で教える・行動する	９０％の学び

○「人のためにもなり自分のためにもなる」（道徳の定義）
○「関連づけることができる人が頭のいい人」
○　ノンバーバルコミュニケーション
○　アサーショントレーニング
〈例〉生徒が一人，授業中に寝ている場面でのトレーニング
隣の生徒が，寝ている生徒を起こさないといけない状況設定

①たたいて起こす（たたかれた生徒がストレス）
②オドオドして起こせない（起こせない生徒がストレス）
③「先生が見ようぜ，一緒にがんばろう」（お互いストレスなし）
お互いがストレスなしを考える→アサーショントレーニング

♪学習会に参加された先生方の感想♪

・とても勉強になりました。もっともっと学んでいきたいと思いました。「実践して」理解を深めていきたいです。

・単発的な活動ではなく，理論や根底にある考えを学べたことがよかったです。集団づくりの前に風土づくりが大切だということ，そのことが印象に残りました。もっと勉強したいと思いました。

・とても具体的で，自分も体験したのでわかりやすかったです。「行動して学ぶ　９０％」はこれかと思いました。そういう経験をたくさんしたいです。ありがとうございました。

・実践例を教えていただき参考になりました。学活でエンカウンターをしていきたいと考えているので，今日教えていただいたものを実践したいと思いました。理論についても学べたので，非常にためになりました。本当にありがとうございました。

・重枝先生のお話はとても新鮮で明日からの活力になりました。

・学級経営で悩んでいた時期だったこともあり，重枝先生のお話が本当に勉強になり，励みになりました。今回学習したことを学級で生かしてみたいと思いました。次回もよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

・言葉のキャッチボールやえんぴつ対談など具体的な指導例を教えていただいて，楽しく講義を受けることができました。正直，自分自身このような指導をするイメージがなかったので，今後に生かせるなと思いました。ありがとうございました。

・質問したいこともあったし，もっと聞きたかった。時間がもっとあればよかった。

・今の自分の学級づくりや生徒指導に生かせる気がします。今日の話は楽しく，納得できることが多かったです。ありがとうございました。

・えんぴつ対談など，実際に自分がしてみることで色々と感じることがありました。時には自分も体験してみることが大切だと思いました。勉強になりました。

・今後の学級活動を進めていく上で何を考えたらよいか少しわかりました。教師の一方的な話ではなく，生徒の活動をうまく取り入れていきたいと思いました。

・行事や授業づくりには集団づくり，風土づくりを先にしなければいけないという考え（理論）を意識して，学級，部活で生かしていきたいと思います。

・サッカーでは見たことのなかった重枝先生を見させていただきました。参加して心がスッキリし，又，自分が生徒に対して力みすぎている気になりました。

・早速，明日からでもやりたいことばかりです。コミュニケーションについてのお話は，ここ最近自分でずっと思っていたことと先生のお話が似ていたので，すごくほっとしました。

・重枝先生はかなり細やかに，そしてオープンに，自分の理論，根本的な考え方，発想の着眼点から教材化する過程，実践まで，実に多くのことを伝授してくださいました。その中から何を吸収し，行動するのかは参加者の学び次第。今後，実践交流に発展していくであろうこの会のこれからが楽しみです。